

# 町民の切なる願いを 込めて結集!!



大会長  
当別土地改良区理事長  
山田 智氏



当別町長  
泉亭 俊彦氏

当別ダム早期完成を求める

町民緊急大会(H17.11.23)

1,100人



## 最近のダム関連のつぎ

に提出する。

昨年(平成十七年)の十月、当別町青山に建設予定である当別ダムの建設事業について、北海道が行う公共事業評価専門委員会が審議を持ち越したところより、ダム建設を巡り、札幌市の繁華街での建設中止を求める署名がなされ、新聞、報道等も取り扱う回数が増加し、当別町民のダム建設への関心が高まった。

当別ダム建設に反対する団体は建設休止を求める要望書、署名を北海道

に提出する。同じ時期、当別町においては上記写真にもあるように千百人を集めた当別ダム早期完成を求める緊急大会が開催された。これらの慌ただししい動きのなか北海道の公共事業評価専門委員会は当別ダムの建設継続を条件付きで了承し、本委員会報告を受けた知事は地元町民のこうした大会・要望を重く受け止め、十二月十六日に正式に当別ダム建設について事業継続を了承すると表明した。

## 議会も働きかける!!

当別町では、昭和三十年代の半ばころより、現在に至るまでの約半世紀で主な洪水災害だけでも、約三十件発生しており、当別町が治水にどれほど悩み尽力してきたか本町、町民はその苦勞を理解している。

本町議会においても、その重要性から五十年代

の初めころより、議会での議論がなされ、ダムという重大プロジェクトであるため、昭和五十四年十二月定例会において、堀梅治委員長他十名で、当別ダム対策特別委員会が設置され、審議を重ね、国・道などに要望し平成三年十二月に十二年六ヶ月という長期の努力の結



北海道議会議員  
内海英徳氏



当別町議会議員  
竹田和雄氏

### 治水の必要性

当別町を流れる河川は、国、道管理の石狩川、当別川と町管理の支流を併せ百四十八にもなり、河川は網の目で、流下能力が低いため、大雨のたび、洪水被害に遭ってきた。現在も台風、集中豪雨で、中小規模氾濫がおき、農作物被害が発生する。台風、集中豪雨対策には抜本的恒久対策として水量調整に重大な役割を果たすダムが最良である。

中止になると大規模集中豪雨時には水量調整できず、災害が拡大化する。**水道用水の必要性**

本町の水道水は当別町の中心街にほど近い元町の浄水場から取水し、町内の家庭に送水している。現在、当別川から取水しているのは、平均排出

量約六千三百トンで、このうち、水利権という許可を得ている水量は千五百八十四トンである。

不足水量については、当別ダムが完成することと条件とする暫定豊水水利権が六千三百三十六トンと千五百八十四トンの併せて七千九百二十トンというなかで水道事業を

### なぜ、必要なの？

不安定ながら実施している。中止になると安定数量の水が確保できなくなり、川に水があっても国、道の許可なしには水が利用できず、水が欲しくても他人の水が自宅敷地を流れている状態で、町民は見ているだけとなる。

不安定ながら実施している。中止になると安定数量の水が確保できなくなり、川に水があっても国、道の許可なしには水が利用できず、水が欲しくても他人の水が自宅敷地を流れている状態で、町民は見ているだけとなる。

### かんがい用水の必要性

当別町の農業は、従来より水不足の状態が昭和三十年代に世界銀行からの融資により青山ダムが完成し、その後、篠津地域開発事業により多数の施設が造成され、約四十年経過して、平成七年になり、老朽化、技術革新等により、よりよい農業

### 中止ならどうなるの？

を実施するため、国営かんがい排水事業当別地区が着手された。近代化農業に対応すべく、代播期の短縮、深き用水など近年営農技術に対応する用水にすると、複雑な用水システムの監視など経費が削減できるし、なにより当別町の農業事

業は当別ダムができるものと信じた農業者の方々が同意している。実際に用水、排水系統、面整備にいたってもダムを前提としているので、中止になると、水が農家にスムーズに配水されるかという疑問も生じる。**ダム以外では**例えば、遊水池は「平野部において、洪水の一部を貯留して下流のピーク量を低減されるためのもの」だが、町には、広大な平野部がなく大規模採掘も考えると採掘費だけで、千四百億となり、ダム予算の約二倍となる。

当別ダムは国、道、石狩西部広域水道企業団、町などの団体が出した現段階の最善策である。

果、当別ダム建設着工予算が大蔵内示を受けた。

### 当別町議会の経緯

こうして、平成四年にダム工事着工に至り、測量等から開始された。

その後、平成十三年に、全体水道用水量減量に伴い、平成十七年には全体水道用水量減量とダムの形式変更により、当別ダム建設事業は、その度に計画変更を実施し、完成年度は十八年から二十四年に先送りになり、ダムの規模縮小も決定された。そんな中で当別町議会

暮らせる（洪水災害、農業用水確保、飲料水の確保）ように、平成十三年の三月議会では、谷議員より当別ダムの早期建設について緊急動議が出され、日程を追加し十分に審議した結果、全会一致で、当別ダムの早期建設は決議され、町と議会が一体となって掘知事他関係機関に当別ダム早期完成を求める要望書を提出しました。

### 今後、ダム事業の推進について

これまで、個々に国、北海道、石狩西部広域水道企業団が各団体間でのみ、事業の年度毎、進捗状況、内容などと随時、全体計画の内容などを協議していたのを、合同で「連携協議の場」を設け、精査、検証をしながら取り進められる。

当別ダム建設事業の評価については北海道庁のホームページの組織別メニュー 総務部 行政改革室行政改革課 政策評価 当別ダム建設事業に係る「知事が行う政策評価」で調べられ確認できます。